光琳新撰百圖
光琳写
上

世の中に尾形光琳のもてはやさるゝや
一花一葉といへとも人是を珍として斎しく
よろこひまつられしも其技倆と高く我
大皇国乃寛平延喜比乃おほむかしとか
なかころむねとし宋代の古雅をやつの
ものにして人物山水花鳥草木は
奥のそこを極め筆墨のたくみ精妙

是我　皇國につたはる教　南宗最
第一とも言へし我師抱一上人か
に常に申されしは遠きことさへ知る
國人の事と思へるはあやまりなり我
皇國は武士のこゝろをもちて文武
道を言ひ兼たるさむらふ國のならはし
ことに國こそ倣ひきたりされどもこと國に先

まさるはくれなゐをはくれなゐの一株は至
能くはして手に得るは取用ゐるやまとの我
奴としてつかふへし懸橋之継は
草莽の蟷螂なれと学ひとひやは
羅子なりして強くつよくしてやはらかし
国中につめる胄は多きをとめてならぬ
自ら大和魂学ふ人に顕れは識り

思ひのおもむきのまゝにえかきし風の古画
を始めとし宋南宗北宗ころにしこの名人多
癖ありあれハいつやらぬよりそのものまゝにて
目にとめおかれくまゝに絵によりともえ
つれはこの法橋おさ法を志るふかれにて
れハ蘭亭よりこそ書讀を撰ひあつめ之
正てし中より濃さしきをとりかき哉

師みのしわきまへひかれる
光琳百図すあり光琳新撰百
図とあつめ二やきとれし
桜木まのふかせふきも色
世にあらはしおもしん
めんくよつハヤの門をと
あさきさるは教へ子れ筆れたまて

けふもまたよしとてあん

元治と改りける甲子の年

張郡藤原之信喬和軒

此南窓乃もとにてものする

絹本墨画

絹本淡彩

絹本彩色
太公望

紙本彩色
秋好中宮之侍女
横山氏蔵

紙本淡墨

紙本金銀泥

舊松軒藏

紙本彩色

絹本彩色　小町伊勢二幅對

絹本彩色
紙本三幅對淡彩
法橋光琳
法橋光琳
法橋光琳

金地
團扇

極彩色

金地

同

金砂子

極彩色

金地

同

金泥ぬり法かし
墨画

光琳

金
泥引

同

金
泥引

墨画

泥引

同

金地二枚折屏風伊勢物語極彩色

法橋光琳 方祝

伊勢物語
扇面三枚彩色

絹本墨画三笑

舊松軒藏

絹本淡彩蜆子葛山

菅公縁記扇面
三枚影写
絹本波之日出
法橋光琳
不争庵蔵
絹本福禄寿
雪舟以宗湛写
光琳

紙本淡墨

舊松軒藏

紙本淡彩

紙本

團扇六枚

白地泥引

金地　波群青

右同

金地

金地

白地

金地

橋銀泥ぬり
川ふし
波彫青

紙本淡彩

紙本うす彩色

秋草附小袖に彩色萩の花金銀泥

絹本淡彩

絹本墨画

紙本墨画

紙本多くは淡墨

松竹梅 雪月花

紙本
中淡彩
左右
墨画

紙本墨画
福禄寿

金地六枚折一雙
四季草花彩色

紙本墨画

紙本みゝ繪

蒔絵三輪硯箱　ふた　丈九寸　拾八寸

地梨子　杉なみあり　こき青貝まちる

うら

其一
其二

きうり
わらび堂

同硯箱

筆衣なまり
面青貝ちらしにて
かきておとし

同 硯箱

地熱金
衣青貝菱金
節黒くゝりすし金
さしぬき青貝鈹金
馬渇くゝあてぬき
とも金
波青金のくゝへ銀

玉縁也
寸法
丈八寸
横七寸

午一

其二

内之形

右箱書付

佐野渡硯銘

青々光造

金地二枚折
屏風一双
極彩色

法橋光琳

法橋光琳

彫工 清水柳三